

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

**事業所名** グループホーム やすらぎホーム鴨方

日付 平成19年3月31日  
特定非営利活動法人

**評価機関名** ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年  
評価調査員 看護、訪問看護経験5年、福祉系短期大学  
教職員経験9年

**自主評価結果を見る** (まだリンク先はありません)

**評価項目の内容を見る**

**事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります！)**

### 外部評価の結果

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

設立されてまだ1年足らずしか経っていない若いグループホームで、介護福祉の経験の少ない母体によって運営されているので、色々な病院や施設で経験してきたホーム長や管理者によって試行錯誤しながら運営されている。

代表者の身内に認知症になった家族がいて、その経験や思いから平成15年に最初のホームが出来ており、3年半の実績がある。ホームに関わる職員が先ずしなければならないことは、このホームの実態をしっかり観察してみなければならないだろう。一からの出発ではなく、もう一つの現在を土台として出発しなければ効率が悪いことは目に見える。

ホーム長が共通した立場でいたので、2つのグループホームが共有されたケアシステムでスタートしていない事が、少し不思議に思う。独自性を出すという事は必要なことであるが、それは最低の基準レベルをマスターされた後のことだろうと考える。

グループホームは、認知症高齢者が今までの生活の延長線上で、ゆったりとした境遇の中で、自分の出来る事をしながら活き活きとした第二の生活の場で暮らしていける場とサービスを提供するとあるが、高齢者が安心して生活してもらう場づくりをする職員は、しっかりした業務(仕事)をこなしていかなければならない。その業務の一つひとつが曖昧になっていると、何もかもが出来ていない不安定なホームになってしまうと思う。

代表者以下ホームの管理者、職員は具体的な業務を定め、最低限誰がしても同じ仕事が出来る様な礎をつくっていかなければならないと思う。

今後は、代表者、管理者、職員全員で、認知症ケアはどうすべきか、本人や家族に対するサービス提供はどうすれば良いかをしっかり考えて見てもらいたいと思う。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

開設して10ヶ月余り、色々な面で試行錯誤している所であるが、自己評価でも多くの改善点をピックアップしている。この中から、しっかり業務分析してもらい、実現効果の大きいものから具体的な改善計画と目標を立て、一つずつ改善の実行をしていってもらいたい。きっとホームのサービス改善に結びついていけると期待している。

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
<b>記述項目</b>	グループホームとしてめざしているものは何か		
	<p>これからの人生をゆっくと、自由に歩んで欲しい・・・」「自分らしく、ゆたかな生活を」という運営理念を掲げている。</p> <p>先ず、この理念に叶う生活を利用者にしてもらう為に、歩ける、起きて生活ができる。ことが最低限の人間としての願いであろう。それを現実のものとして、利用者実感してもらおうとしている。この支援こそが、特にこのホームの目標である。</p> <p>ADLの維持がどこまで叶うかは、高齢者や認知症の病気の人に対して難しい事でもあるが、一日一日を大切に、今を大切に生きていく利用者にはとても良い事だと感心して見せてもらった。利用者のその日その日の笑顔を大切に、生き甲斐にして職員も頑張ってもらいたい。</p>		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にされた整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
<b>記述項目</b>	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	<p>ケアの質の基本は、先ず、介護計画の策定にある。介護計画をつくる時に是非必要なことは、次のことの準備をしてもらいたい。</p> <p>利用者の過去の経歴や経験してきた情報をしっかり集めて欲しい。 利用者の人間の本质に当たる性格、くせ、仕草、人間関係などの情報を知ってもらいたい。 何の病気が原因で認知症になったのか、そして現在の状態はどうか、他にどんな持病があるかも知って欲しい。 利用者や家族はどんな生活や支援を求めているのか、これらの情報をよく分析して、この利用者への具体的なケアに結び付けていくプロセスをしっかりと考えて欲しい。これがケアの基本であり、情報は常に利用者の生活や言動から日々出ていることも忘れないよう、しっかりと記録しておく必要がある。計画と記録は常に生きたものにしていて欲しい。</p> <p>認知症の利用者とのコミュニケーションの術もしっかり身につけてもらいたい。利用者にもたまにはしっかりとお話しさせてあげて欲しい。</p>		

### 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
<b>記述項目</b>	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	<p>1階ユニットは9人、2階ユニット6人の利用者が生活している。多数の利用者はリビングルームで過ごしている。皆と一緒に暮らすことに楽しみを持ち、居室は休みに行くだけといった活用の仕方である。人数の差もあろうが、ユニットの雰囲気も少し違っている。</p> <p>職員も利用者の輪の中に入って、話したり、歌を唄ったり、ドリルをしたり、塗り絵をしたりして、全員で生活していることを実感する。</p> <p>リビングルームには、行事毎の写真や利用者の作品が貼ってある。</p> <p>1階には、リビングルームからウッドデッキに出られ、2階はバルコニーがあり、プランターを置いて花を植えている。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
<b>記述項目</b>	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	<p>グループホームは、地域に密着したサービス提供をしなければならない。利用者の住み慣れた環境で生活出来るには、夫々の住んできた土地柄を再現するのは難しいので、利用者の生きてきた時代の文化や郷土の風紀のような感じを、そこに住む人々を通して感じ取ることが出来る事ではないかと考える。</p> <p>どのように地域の人々と利用者が接することができるのは、ホームの地域の同年代の人々が来てくれる事あるいは地域で開催されるお祭りや運動会、演劇や色々な行事に参加して、その人が昔味わった雰囲気を思い出してくれることだろうと思う。</p> <p>運営推進会議の回を重ねて、参加者とこのような考え方を話し合い、実行していく事が必要である。</p>		

### ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		